

花き栽培トライアルセミナーによる新規生産者の育成

農林総合研究センター農業試験場 中央普及支援センター



小ぎく栽培のメリットを講義



挿し芽作業の実習

石川県では、農家の高齢化によって花きの生産量が年々減少しています。特に金沢市場における小ぎくの取扱量は、最盛期は4割程度が本県産でしたが、最近では1割程度にまで落ち込んでいます。一方で年間を通じて地元産の小ぎくを望む市場ニーズは大変強く、県内で新たな農家を育成して生産量を増やすことが喫緊の課題となっています。

このため、中央普及支援センターでは、石川県花き園芸協会と連携して、平成24年度、新たな花き農家を育成する「花き栽培トライアルセミナー」を企画しました。本セミナーでは、農業経営に花きを導入する農家を対象として、県農業試験場のほ場で実際の作業をしながら技術を習得するほか、先進農家や卸売市場での研修を実施します。また、講師は花きの育種や栽培に取り組んでいる県の研究員が務めるため、最新の研究成果を直接聞くことができます。さらに研修後においても、各農林総合事務所が参加者のフォローをしっかりと行うことで、技術の定着を図ります。

本セミナーの第1弾として4月10日にスタートした「小ぎくコース」には、JAや各農林総合事務所を通じて25人の応募があり、参加者からは「実際の作業をしながら栽培管理の手順が確認できて分かりやすい」等の意見をいただいています。10月からは「フリージアコース」の開催を予定しており、本県オリジナルの新品種が開発されて期待の高まるフリージアでも、市場ニーズに応える生産量を確保するため、新規の担い手を育成したいと考えています。

問い合わせ先：農林総合研究センター農業試験場 中央普及支援センター
(076-257-9150)